

原発、民主主義そして対話 —福島原発事故の語られ方

日時： 2026年6月20日（土）
13時30分～16時30分（開場13時00分）
場所： 関西外国語大学ひらかた中宮キャンパス
ICCホール（ICC4階）
参加費： 無料・定員200人（対面参加・要事前登録）
ウェビナー形式によるライブ配信あり（要事前登録）

基調報告 「福島核災害と被害者の声—対話という民主主義の実践」
平野 克弥（関西外国語大学）

「国策棄民の水脈に抗う
—思想としての早川篤雄と福島原発事故—」
関 礼子（立教大学）

コメンテーター

根本 雅也（一橋大学）・酒井 朋子（京都大学）・山本 昭宏（神戸市外国語大学）

司会

蘭 信三（関西外国語大学・上智大学名誉教授）



参加ご希望の方は、右の2次元コードからご登録ください。

登壇者紹介

主催： 関西外国語大学国際文化研究所

基調報告



平野克弥（関西外国語大学国際共生学部・教授）

米国シカゴ大で Ph.D.取得。米国コーネル大、カリフォルニア大学・ロサンゼルス校歴史学部教授などを経て、2025 年 4 月から国際交流部長、国際共生学部教務部長、留学生別科教務部長を務め、新しいグローバル教育の促進に携わっている。著書に『原発と民主主義——「放射能汚染」そして「国策」と闘う人たち』（解放出版社、2024 年）、Beyond the Untranslatable - Theorizing Postcolonial Translation (Routledge, 2026) など。



関礼子（立教大学社会学部・教授）

公害問題の「被害」「当事者」のナラティブ、大規模開発後を生きる人々の生活史などを調査・研究。近著に『語り継ぐ経験の居場所』（新曜社、2023 年、編著）、『福島原発事故は人びとに何をもちたのか』（新泉社、2023 年、共著）、『〈驚き〉を呼び込む自然体験学習』（昭和堂、2025 年、共著）など。

コメンテーター



根本雅也（一橋大学大学院社会学研究科・講師）

一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。専門は社会学、質的社会調査。原爆の被害と記憶について調査研究を続ける。主著に『ヒロシマ・パラドクス—戦後日本の反核と人道意識』（勉誠出版、2018 年）、共編著に『原爆をまなざす人びと—広島平和記念公園 8 月 6 日のビジュアル・エスノグラフィ』（新曜社、2018 年）など。



酒井朋子（京都大学人文科学研究所・教授）

ブリストル大学社会学部 Ph. D. (2010 年)。専門は人類学。長期紛争や公害など危機的な状況のなかでの日常的人間関係や衣食住の営みについて調べる。近年の業績に「野良化する汚染——原発近隣地域で山の幸とかかわりつづける模索について」（『文化人類学』第 90 巻 3 号、473-491 頁、2025 年）など。



山本昭宏（神戸市外国語大学外国語学部・教授）

専門は文化史・歴史社会学。戦後日本の核エネルギー認識に関する研究からスタートし、近年では戦後日本の民主主義をめぐる文化史や思想史の再検討に取り組んでいる。主著に『核エネルギー言説の戦後史 1945～1960：「被爆の記憶」と「原子力の夢」』（人文書院、2012 年）、『戦後民主主義 現代日本を創った思想と文化』（中公新書、2021）など。

司会 蘭信三（関西外国語大学国際文化研究所・研究員）



会場・アクセス

来場者用駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

最寄り駅：京阪本線 枚方市 最寄りバス停：京阪バス 関西外大中宮キャンパス

詳細は本学 HP をご参照ください。

<https://www.kansaigaidai.ac.jp/access/>

問合せ (Email) : iri-2026@kansaigaidai.ac.jp
関西外国語大学国際文化研究所